JA3AER

＊＊＊　アマチュア無線 QSLカード切手 （その12）　＊＊＊

JA3AER 荒川泰蔵

1. 第33回JAIGミーティング2017参加記

去る5月18日から4日間、ドイツのフライブルグ(Freiburg)郊外のヴォルトキルヒ(Waldkirch)にあるホテル・スッゲンバッド(Hotel Suggenbad)で開かれた、第33回JAIGミーティングに参加して来ました。筆者は前日、JK3IYB西さんと関西国際空港から出発、フランクフルトで電車に乗り換えてフライブルグ駅に到着し、出迎えてくれたDJ0ER長倉さんに車でホテルまで送って頂きました**(写真1)**。

写真1　(左) DJ0ER長倉さんの運転でフライブルグを走行中。前方左に路面電車が見える。
(右) JAIGミーティングの会場になったヴォルトキルヒのホテル・スッゲンバッド。

ホテルではJAIGの主宰者DF2CW壱岐さんとXYLのDN2MCWエリカさんが出迎えてくれ、既に到着して夕食を済ませた参加者達を紹介してくれました。筆者はドイツでのミーティングに参加するのは4回目で、1997年以来、実に20年ぶりの参加でした。しかし、その間に日本で2000年、2004年、2010年と3回開催しており、それからは7年ぶりで顔見知りも多く、再会を喜び合い、初めての人とはファースト・アイボールQSOを楽しみました**(写真2)**。

写真2 (左)　ホテルに到着して、早速ガーデンで歓談するDK6KGギュンターさんと筆者。
(右) 翌朝の朝食時、左側がJK3IYB西さん、右側が愛犬ボボを抱くDF2CW壱岐さん。

今回の参加者は約50名で、日本からの参加者は我々以外にJA3PE大西さん、JA9IFF, JQ1NRO中嶋さんご夫妻の3名、それに仕事でドイツに駐在中のJF0WBW (DB1JPN) 清水さん、語学留学中のSWL香月美桜さんを加えると7名でした。

初日18日(木)は、朝食後エリカさんが参加者の受付を開始、午前中に大半の参加者がチェックインを済ませました。プログラムの最初はフライブルグ市内の見学です。市内の待ち合わせ場所までは個々に行くことになり、ホテル前のバス停から路線バスに乗り、ローカル線のデンツリンゲン(Denzlingen)駅から電車でフライブルグに向かいました**(写真3)**。

写真3 デンツリンゲン駅でローカル電車に乗り込む。

フライブルグ駅から集合場所への途上に幸い郵便局があったので、記念のカバー(封筒)に切手を貼って消印をしてもらいました。旧市役所前の広場に全員が集まったところで、ボランティアのガイドが我々を案内してくれました。説明はドイツ語でほとんどわかりませんでしたが、大聖堂を含めた市内観光を楽しみました**(写真4)**。

写真4 (左) フライブルグの消印が押された記念のカバー。(右) ボランティア・ガイドによるフライブルグの旧市内の観光。

2日目19日のプログラムは隣国フランスのコルマー(Colmar)市内観光でしたが、あいにくの雨でした。大型バスに乗り込んでライン川を越えるとフランスで、コルマー市内の観光は案内所のガイドがドイツ語で説明してくれました。ニューヨークの自由の女神像の作者である彫刻家バルトルディは、この町の生まれだそうで、その博物館も見かけました**(写真5)**。

写真5 (左) 観光バスで国境を越える。(右) ガイドによるコルマー市内の観光。彫刻家バルトルディ博物館。

フランスからの帰途、ドイツのブドウ畑が続く町のワイナリーで、ワインを楽しみながらの夕食を済ませてホテルに戻りました。壱岐さん達がホテル内で無線LANを設置しD-Starで日本との交信を試みましたが、LAN回線が不安定で残念ながら日本との交信は出来ませんでした。一方で、DJ0FXウォルターさんが2mのFMでCQを連発し、ホテル内の参加者とQSOを始めましたので、筆者も久しぶりに英国のCEPT免許を使って、DL/GW0RTA/Pのコールサインで、DJ0FX/Pウォルターさん他数局とQSOさせて頂きました**(写真6)**。

写真6 (左) 左からDJ0FX ウォルターさん、DL4KBB ヨッヘンさん、筆者。(右) DL/GW0RTA/Pの即席QSLカード。

3日目20日は、黒い森と呼ばれるシュバルツヴァルト(Schwarzwald)にある野外農業博物館に出かけました。駐車場に着くと、去る4月19日に大阪で会ったHB9JOE アンディさんとHB9FPM エバさんご夫妻が、チューリッヒから車で来て待ってくれてました。早速JAIGの皆さんに紹介して、博物館の見学や昼食を共にして頂きました**(写真7)**。

写真7 黒い森にある野外農業博物館で、再会したHB9JOE アンディさんとHB9FPM エバさんご夫妻を交えて。

アンディさんとエバさんに別れを告げ、再びバスでフルトヴァンゲン(Furtwangen)にある時計博物館に移動しました。博物館前で記念の集合写真を撮影後、博物館の珍しい時計などを学芸員の説明で見学しました。この地方は昔から、冬の寒くて農業が出来ない期間、工芸品などのモノづくりが盛んで、時計産業もその一つとして発達したようです**(写真8)**。

写真8 時計博物館前で記念の集合写真を撮影後、博物館の珍しい時計の数々を見学した。

夜の晩餐会は壱岐さんの挨拶で始まり、過去1年の物故者2人への黙祷後、歓談しながら夕食を楽しみました。そこで、民族衣装を身に着けた手動オルガン愛好家が、それを演奏しながら歌ったりして楽しませてくれました。初めて見る楽器ですが、ハンドルを回すことで内部のふいごからパイプに風を送る仕組みで、、鍵盤がなく、事前に鑽孔された紙テープを回転させて風を送る位置を決める仕組みのようです。曲目ごとにその鑽孔テープのロールを変えねばなりませんが、誰でも容易に演奏することができそうでした。**（写真9）**。

写真9 晩餐会の様子。

翌21日には朝食を済ませて皆さんに別れを告げ、帰国の途につきましたが、ホテルの駐車場にはアマチュア無線家の車であることが分かるライセンスプレートの番号が並んでしました**(写真10)**。

写真10 ライセンスプレートの数字からわかるアマチュア無線家の車。

2. モロッコ (CN) と、アルゼンチン (LU) のQSL切手

さて、本題に戻してQSL切手の続きです。前回のオーストラリア(VK)に続き今回はモロッコ (CN) とアルゼンチン (LU) ですが。QSLカードはモロッコが１枚、アルゼンチンは２枚しかありませんので、それぞれ１種類のQSL切手しか紹介できません。このように資料数が少ないと、果たしてこれだけしかなかったのか、他のも違ったものがあったのか疑問が残ります。読者の皆さんが、これらの国々のQSL切手が貼ったQSLカードお持ちでしたら、是非拝見させて下さい。

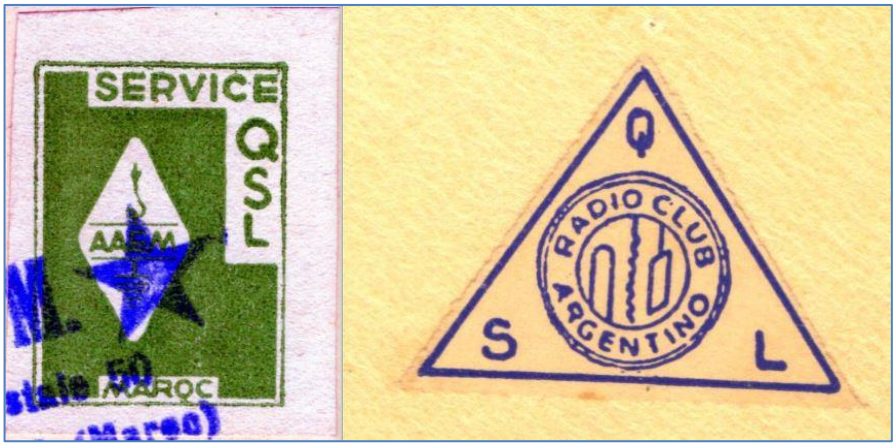

写真11 (左) モロッコのQSL切手。(右) アルゼンチンの三角形のQSL切手

3. モロッコ (CN) のQSL切手が貼られたQSLカード (CN8CK) の事例 (1952年)

モロッコのQSL切手を貼ったQSLカードはこの1枚しかありませんでした。白地に緑色1色の印刷で、モロッコの当時のアマチュア無線連盟と思われるAAEM (現在はARRAM) のロゴをあしらい、「SERVICE QSL」と国名「MAROC」が印刷された、34 x 26mm (印面 27 x 20mm) の大きさのもので、無目打ちです。QSLカードには、QSL切手にかけてQSLビュローで押されたと思われる「A. A. E. M. Belte Postale 50, CASABLANCA (Maroc)」の青色の印が押されています。**(写真12)**。

写真12 モロッコのQSL切手が貼られたQSLカード (CN8CK) の事例 (1952年)

4. アルゼンチン (LU) のQSL切手が貼られたQSLカード(LU6DJD) の事例 (1952)

アルゼンチンのQSL切手を貼ったQSLカードは2枚ありましたが、その内の1枚で大型です。QSL切手には連盟のロゴとQSLの文字が、白地に濃い青色で印刷された、底辺が33mmで高さが24mm (印面は底辺が29mmで、高さが22mm) の三角形で珍しいものです。それにはロール目打ちが施されているように見えます。丸型の押印はオペレーターのもので、表面のサインのところにも押されています**(写真13)**。

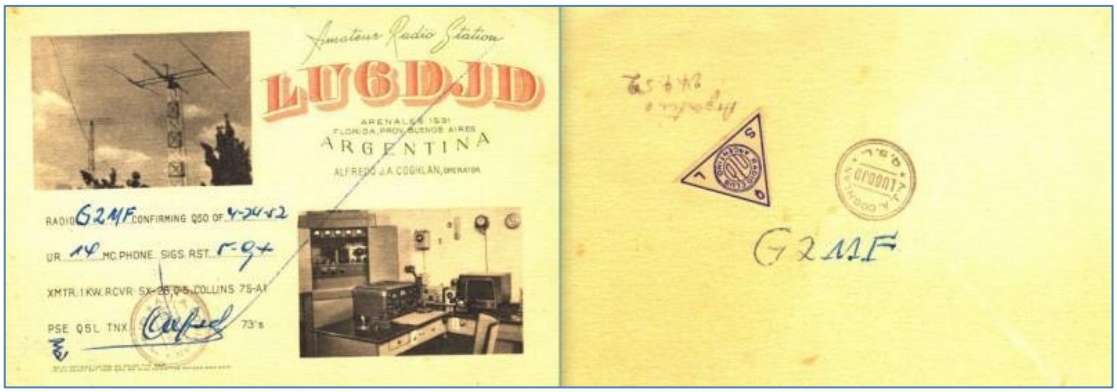

写真13 QSL切手が貼られたQSLカード(LU6DJD) の事例 (1952)

5. アルゼンチン (LU) のQSL切手が貼られたQSLカード(LU6DCE) の事例 (1954)

アルゼンチン のQSL切手が貼られたもう1枚のQSLカードです。このQSL切手には「SERVICIO QSL, RADIO CLUB ARGENTINO, BUENOS AIRES」と緑色の印と、「RADIO CLUB MAR DEL PLATA, SERVICIO QSL」と黒色の印が押されていますので、ローカルクラブのQSLビュローを経由して連盟のQSLビュローに送られたものと思われます**(写真14)**。

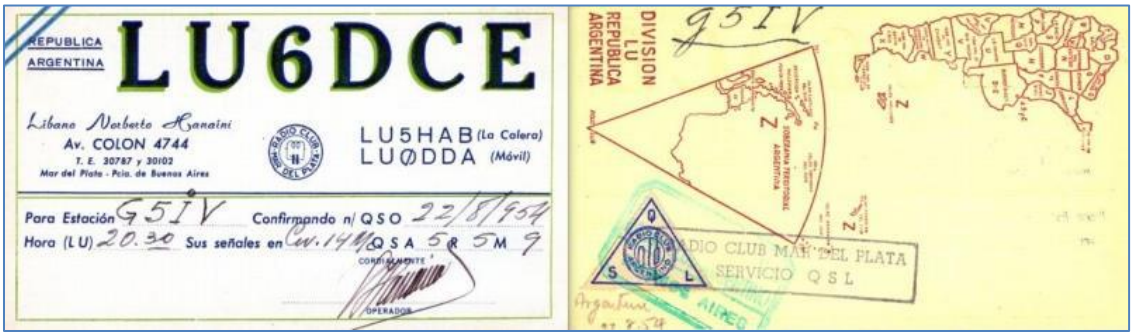

写真14 QSL切手が貼られたQSLカード(LU6DCE) の事例 (1954)

次号に続く

JA3AER 荒川さん